

**SEPTEMBER
CONCERT
'76**

近畿4大学交歓演奏会

SEPTEMBER CONCERT

1976年9月18日<土> 大阪府立青少年会館文化ホール

ごあいさつ

本日は、お忙しい中を御来場下さいまして有難うございます。

私達は、ここに近畿4大学交歓演奏会“SEPTEMBER CONCERT”を開催する運びとなりました。これもひとえに、皆様方のあたたかい御支援のおかげと、4大学部員一同心から感謝しております。

私達の演奏は、まだまだ技術的に未熟な点があるかと思いますが、アマチュアだからといった安易な考えは捨て去り、合唱に対する厳しさを決して忘れることなく練習に励んでまいりました。学生のコーラスグループとして、若者らしい感性に満ちあふれた合唱をつくり上げて行きたいと思います。

今宵、学生生活の一ページとして、青春をうたい上げる機会を持てましたことは、私達にとってたいへん意義深いことだと思います。

最後に、この演奏会開催にあたり、御協力頂きました関係者の皆様に厚く御礼申し上げますとともに、今後の御鞭撻をよろしくお願いいたします。

四大学部員一同

皆様、本日はようこそご来場下さいました。近年、我が国の合唱音楽における技術的向上はめざましいものがあり、作曲家の欲求と期待は、ますます高度に幅広いものになって来ております。

今回の演奏会では、それぞれの伝統に培われた特色ある男声合唱団が、最も得意とする曲目を皆様にお聞かせするのはもちろん、出演者が一堂にステージを共にいたします。

本年は、大阪外国語大学が主催校でありますので、ヴォイスレーナーの私がそのお手伝いを致します。

ドイツ古典派から、ロマン派のオペラ合唱曲をどうぞお楽しみ下さい。

合同演奏指揮者 林 誠

男声合唱組曲 「アイヌのウポポ」

採譜 近藤鏡二郎

作曲 清水 脩

指揮 高橋 正治

- I くじら祭り
- II イヨマンテ（熊祭り）
- III ピリカピリカ
- IV 日食月食に祈る歌
- V 恋歌
- VI リムセ（輪舞）

ウポポとは、アイヌ語で歌の意味である。アイヌ民謡研究家の近藤鏡二郎氏の採集したアイヌ民謡の中から6曲選び、清水脩氏が合唱のために作曲したものである。これらの歌からアイヌの素朴でかつ淋しい日々の生活が偲ばれるのである。

★クラブ紹介

初秋の涼風が吹く午後、モダンな建物の二階の部室へ一人の商大生が入って来て、薄汚れたピアノをぎこちなく鳴らし始めます。彼の眼は昨夜は何をしていたのやら、トロンとして活気がありません。時々メロディーを口にするのですが、音がはずれていて聞いたものではありません。たまに楽譜に「下るな」とか「やさしく」とか書き込むのですが、その後で歌う彼の歌といたらいっこうそんなことはないのです。

そのうち、彼の周囲ではバドミントンが始まったり、「王手！」の聲がひびき始めます。それでも彼の方は知らぬ顔でピアノとにらめっこ。すると、この騒々しい中でどこからか「やろうや」「やるカァ」の聲。突然それまで眠っていた彼の眼はらんと輝き、「オレもやるウ！」こうして4人の雀鬼が決まり出した頃には、40名余りのいろんな顔がこの部屋を埋め尽し、騒しさも絶頂に達するのです。そして、午後1時ちょうど指揮者のひと声で待ちに待った神戸商科大学グリークラブが突如姿を現わし、様々な音色がまたこの部屋にしみ込んで行くのです。

「智恵子抄」より

作詞 高村光太郎

作曲 清水 脩

指揮 近藤 益教

I 梅 酒

II 智恵子抄巻末のうた六首

これらの2曲は東海メール・クワイヤーの求めに応じて清水脩氏が作曲したものです。

高村光太郎と智恵子との思い出を綴った「智恵子抄」——いかに世界の移り変わりはあっても、我々の心の内に本当の愛の姿を訴えている様に思います。作曲者清水氏の次の言葉と我々の演奏の間に少しでもいい、結びつくものがあったら……そんな気持です。

『狂人となった智恵子と高村光太郎との、いいようのない戦いの生活、そして智恵子は死んだ。これはつくりごとではない。私の胸をうたずにはおかない、はげしい、荒れくるう「二人」。

男と女の二つの存在。なぜこの二人がそうならねばならなかったのか。私はそこに、ことばで言えない精神の飛翔を見るおもいがする。

私はそれを音に託して表現したいのである。』

★クラブ紹介

雲ひとつない青空に、白鷺が翼を広げはばたこうとしている姿を映し出している様に見えるところから「白鷺城」の異名を持つ「姫路城」。その北にあった姫路工業大学にグリークラブが創立されて26年。その間には短大との分離、書写山麓への校舎移転、と種々の出来事があったが、今年で定期演奏会も25回とほぼ4分の1世紀を生きて来、伝統ともいうものを考えさせられている。しかし、ここ4～5年の間に工大に広がって来た原因不明のクラブへの無関心のため、我グリークラブも部員不足に頭を悩めている。しかも、その少ない人数であっても、工学部の宿命ともいえる実験や実習の連続に、全員そろっての練習が希な少し異常とも思えるクラブではあるが、創立以来のモットーである「心のハーモニー」の合ことばのもとにお互いに人間的なふれあいを深めながら力を合わせて、合唱という一つの音の美を創り上げようとしているのである。

男声合唱組曲 「雪と花火」

作詩 北原白秋

作曲 多田武彦

指揮 川久保 勉

- I 片恋
- II 彼岸花
- III 芥子の葉
- IV 花火

明治末期から大正にかけての代表的詩人、北原白秋の第三詩集「東京景物詩」の中に収められた詩篇“雪と花火”より4篇を抜粋し多田武彦が作曲したもので、全体の詩に流れる韻律とメロディーが調和し、すばらしい世界を創り上げている名曲の一つである。「片恋」という暗いイメージではなく、かえって明るく淡い感じのする愛の詩に始まり、最後は東京の名物でもある両国の花火の様子を見ながら、そこに人生の姿を見つめている詩で終わるこの組曲の世界にしばしひたってみてはいかがでしょうか。

★クラブ紹介

合唱——そのすばらしさがハーモニーの美しさにあることは言うまでもありません。一つのハーモニーを創り出すためには技術もさることながら、全員の「和」が必要です。滋賀大のグリーンメンは彦根の地においてこのことを常に意識し、昼は学問にとりくみ（下宿で一日中寝ている者もいるが…）放課後は血と汗と涙が出る練習に耐え（いったいどんな練習や!?!）夜は市民の安らぎを守るため星のごとく各自の下宿へと散って行くのです。今年是一回生を含め40名近くになった滋賀大グリーン。彦根は静かでのんびりとした街ですが、その中で独特の個性を持った野郎どもが織りなす人間模様には、筆舌に尽し難いものがあるのです。

今夜は、私達の歌声がみなさんの心の中に一つの別世界を創り出すことが出来たなら、これほどすばらしいことはありません。それでは未熟ながら私達の演奏を最後までお聞き下さい。

ロシア民謡集

指揮 松尾航一

- I 母なるボルガを下りて
- II カリンカ
- III 鐘は単調に鳴る
- IV ボルガの舟唄
- V アムール河の波

“心中はばかっているが、歌となれば心中しても良い” ロシア人の歌に対する気持ちがこの諺一つに昇華されている。彼等は歌を生活の糧だとも命だとも考えているのだ。

帝政時代農奴化した民衆は、生活の苦しみを歌に託し歌い続けた。農民暴動の首領ステンカ・ラージンの歌はその代表で、“コサック歌謡”と呼ばれている。また流刑人の歌、世相歌なども生まれ、革命後も新しい歌が出来ている。

ロシア民謡の魅力は、深い哀愁に満ちた切ない程のメロディーと激しい感情の高ぶりの部分との対照にある。また、ほとんどが合唱形式で装飾・即興的な変奏が特徴的である。

「母なるボルガを下りて」ステンカ・ラージンを歌った詩の一部分。尻とり歌の形式をとる。「アムール河の波」雄大なアムール河への讃歌。「鐘は単調に鳴る」若者が失恋の痛みを歌う。「ボルガの舟唄」舟曳人夫達の血と汗と涙の歌。「カリンカ」結娘の花嫁を祝う踊り歌。リズムの変化が特徴的である。

★クラブ紹介

外大グリーは、外国語大学という運命的拘束の故に、総計20種程の言語を解するという極めて有効な能力を内包しています。今宵はロシア語とドイツ語という荘厳な楽器を奏でることになりましたが、少なくとも語の発音には自信を持っています。夏合宿の語学のきびしい試験に全員無事？に合格したのですから。但し、その語感をいかに旋律に乗せるかは難しい努力目標ですが……。

このドタバタ喜劇集団も、偉大な先輩方に支えられ、今年度で満50歳。社会的事情により二度解散を強いられましたが、三代目もこの師走18日に第20回記念定期演奏会を開催する運びとなります。部史に於てと同様、明らかにグリーメンの気質の変化も一つの大きなエポックを成しています。時に暗い蟠りがその為に生じていますが、生来陽気な若者達はハーモニーで解決するのです。

末筆ながらも、荒削りの者どもを根気よく指導し続けて下さっている林誠先生に、部員一同、心から感謝いたします。

I W. A. Mozart

Die Zauberflöte

—Chor der Priester—

W. A. Mozart は、その長逝の年（1791年）に、この傑作を生んだ。

全能の神をたたえる僧侶の合唱は、荘厳である。

II L. v. Beethoven

Fidelio

—Chor der Gefangenen—

ベートーベンが崇高に人類愛を音楽化した歌劇フィデリオは、この男声合唱曲のためにあるようにさえ思われる。

III C. M. v. Weber

Der Freischütz

—Jägerchor—

これはもう皆様良く御存知の曲であります。

★指揮者紹介

林 誠

1971年 大阪音楽大学大学院オペラ研究科修了。日伊コンコルソにてシエナ大賞を得、渡伊。第41回音楽コンクール第3位入賞。第3回マダムバタフライコンクール日本代表選考会第1位。同世界コンクール準入賞。

1974年 東京日伊コンコルソにて第2位を得、渡欧。バルセロナにおけるマリア・カナロスインターナショナルコンコルソで優秀賞を得、帰国。

1975年 第7回民音コンクール第3位。

現在 大阪音楽大学講師。関西歌劇団所属。大阪外国語大学グリークラブヴォイストレーナー。



★伴奏者紹介

藤田文枝

1971年 大阪音楽大学音楽学部器楽学科ピアノ専攻卒業。NHK巣立つ新人演奏会に出演。

1973年 大阪音楽大学大学院修了。

1974年 日演連推せん演奏会・ヤマハリサイタル、大阪市ユースオーケストラ第4回定期演奏会に出演。

1975年 モーツァルトピアノ協奏曲シリーズ2に出演。

上原一馬、井沢 利、オスカー・ケーベルの諸氏に師事。

現在 大阪音楽大学非常勤講師。



京都大学
大阪大学
神戸大学

51年度 第1回 11月3日

3大学判定模試

ハイレベルの受験生が集う

▶実施日 11月3日(水)

▶実施会場 〔大阪地区〕大阪予備校、
大阪北予備校

▶受験料 1,300円
他答案・諸資料郵送費350円

▶申込方法・申込期日

直接窓口、下記書店への申込、10月15日～10月31日

(旭屋書店本店・駅前店・アベノ店・
近鉄百貨店アベノ店書籍売場・駿々堂書店アベノ店
京橋店・奈良店・サカグチ書店)

高校単位の一括申込 実施日の1週間前に実施事務局まで

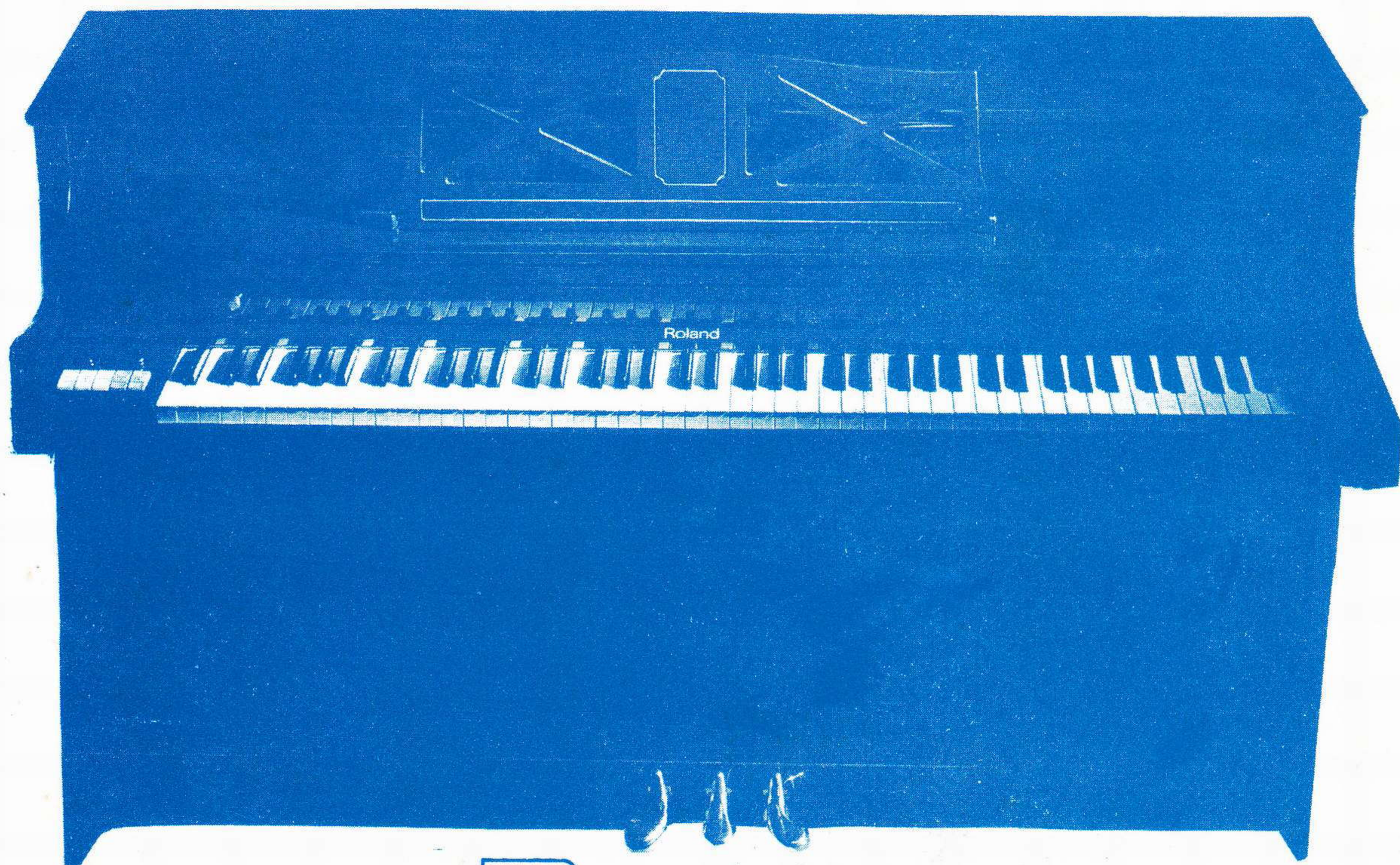
※第2回3大学判定模試は12月19日、お問い合わせは下記の両校へ。

大阪予備校

〒556 大阪市浪速区新川3丁目620番地
(大阪ナンバ大阪府立体育館西横)
TEL (631)8821・(641)9221

大阪北予備校

〒532 大阪市淀川区十三東1-20-10
(淀川河畔・淀川区役所裏)
TEL (06)301-1644・301-6680



 ローランド株式会社